MASPRO

屋内用　FM･V-Low･UHF･BS･CSブースター（共同受信用）

FM･V-Low ･UHF･BS･CS BOOSTER
増幅チャンネル
FM･V-Low･UHF･BS･CS

FUBCAW33

AC100V方式またはDC15V方式

33dB型　4K8K DIGITAL デジタル放送対応

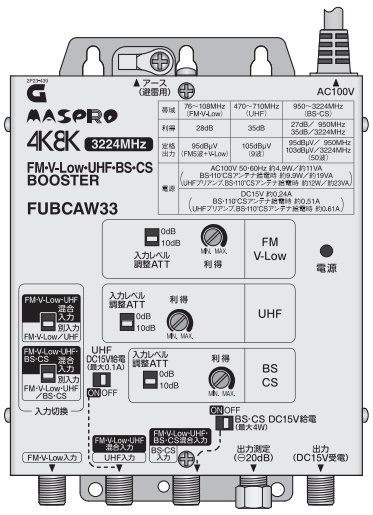
3224MHz対応

ヘッド・ライン両用

BS･110°CSデジタル放送対応

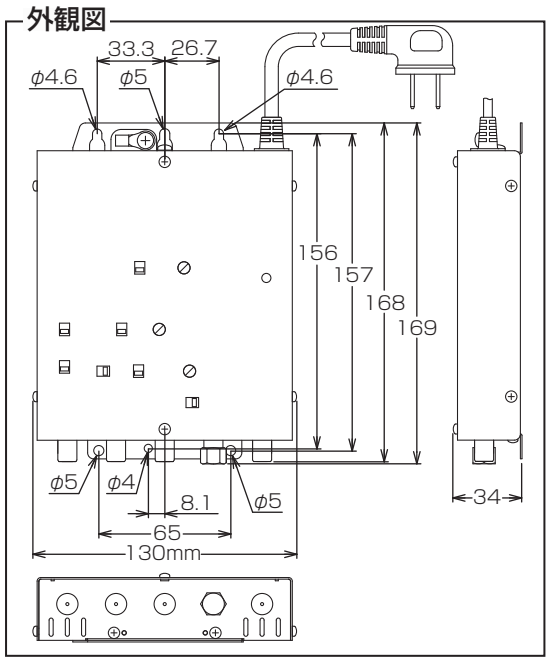
スカパー！プレミアムサービスには使用できません。

取扱説明書



DC15V方式で使用するときの電源部
WP1510DCW（別売品）

外観図



付属品

木ねじ…… 3本
メタルキャップ…… 2個

ご注意

- 設置工事には専門の技術が必要です。専門の施工業者にご依頼ください。
- 4K8K放送を伝送する場合、4K8K放送に対応している機器、ケーブルを使用してください。

- 正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みください。
- この「取扱説明書」は、いつでも見ることができる場所に保管してください。

4K8K　4K8K放送を、より高画質で見るために、4K8K放送の伝送周波数帯域に対応した製品にマスプロ電工が表示しているマークです。

DIGITAL デジタル放送対応　携帯電話や無線通信などとの混信、電波障害を抑制するために、高いシールド性能を備えた機器にマスプロ電工が表示している、信頼のマークです。

規格表

MASPRO

項目	規格		
伝送周波数帯域	76～108MHz （FM･V-Low）	470～710MHz （UHF）	950～3224MHz （BS･CS）
標準利得（利得）	28dB（25～30dB）	35dB（32～37dB）	27dB（24～30dB）／ 950MHz 35dB（32～38dB）／3224MHz
利得偏差（P／V）	3dB以内	5dB以内	6dB以内
入力レベル調整ATT	0、10dB切換	0、10dB切換	0、10dB切換
利得調整範囲	0～⊖10dB以上 （連続可変）	0～⊖10dB以上 （連続可変）	0～⊖10dB以上 （連続可変）
実用入力レベル	44～65dBμV （85dBμV ※）	42～68dBμV （88dBμV ※）	47～65dBμV （85dBμV ※）
定格出力レベル	95dBμV （FM5波+V-Low）	105dBμV （9波）	95dBμV／ 950MHz 103dBμV／3224MHz （50波）
相互変調（IM3）	⊖72dB以下	⊖68dB以下	——
雑音指数	5dB以下	2.5dB以下	7dB以下
VSWR	2.5以下		
入･出力インピーダンス	75Ω（F型端子）		
耐雷性	±15kV（1.2／50μs）のサージ電圧に耐えること		
出力測定端子結合量	⊖20dB（F型端子）		
BS･110°CSアンテナ用電源	DC15V　最大4W		
UHF給電用電源	DC15V　最大0.1A		
電源	AC100V　50･60Hz またはDC15V		
消費電力	AC100V 50･60Hz 約4.9W／約11VA （BS･110°CSアンテナ給電時 約9.9W／約19VA UHFプリアンプ、BS･110°CSアンテナ給電時 約12W／約23VA）		
	DC15V 約0.24A （BS･110°CSアンテナ給電時 約0.51A UHFプリアンプ、BS･110°CSアンテナ給電時 約0.61A）		
使用温度範囲	⊖10～⊕40℃		
外観寸法	168（H）×130（W）×34（D）mm（メタルキャップ含まず）		
質量（重量）	約0.6kg		
シンボル	▷		

※ 利得調整を「MIN.」（利得調整を㊧へいっぱいに回した状態）にし、入力レベル調整ATTを「10dB」にしたときの最大の実用入力レベルです。

製品向上のため　仕様･外観は変更することがあります。

マスプロ電工

本　　社 〒470-0194　愛知県日進市浅田町上納80
営 業 部 TEL名古屋(052)802-2244
受付時間　9～17時45分（土･日･祝日、当社休業日を除く）
インターネット　www.maspro.co.jp

技術相談 ナビダイヤル® 0570-091119
固定電話からは全国一律料金でご利用いただけます
IP電話などナビダイヤルが利用できない電話からは 052-805-3366
受付時間　9～12時、13～17時（土･日･祝日、当社休業日を除く）

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」には、製品を安全に正しくご使用いただき、ご使用になる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示がしてあります。その表示と意味は次のとおりです。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠	△記号は、注意（警告を含む）が必要な内容があることを示しています。	⃠	⃠記号は、禁止の行為を示しています。		●記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を示しています。

⚠警告

⃠	●ブースターは、不安定な場所に置いたり、取付けたりしないでください。落下して、けがの原因となります。 ●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災･感電の原因となります。 ●ACコードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、物や扉で挟んだり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。また、重いものを載せたり、熱器具に近付けたりしないでください。ACコードが破損して、火災･感電の原因となります。ACコードが傷んだ場合（芯線の露出や断線など）、販売店または施工業者に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災･感電の原因となります。 ●ブースターの内部に、金属類や燃えやすいものなど、異物を入れないでください。火災･感電の原因となります。
⃠	●ブースターに水をかけたり、ぬらしたりしないでください。ブースターの上に水や薬品の入った容器を置かないでください。水や薬品が中に入った場合、火災･感電の原因となります。また、ペットなどの動物が、ブースターの上に乗らないようにご注意ください。尿や糞が中に入った場合、火災･感電の原因となります。
	●雷が鳴り出したら、ブースターおよびケーブル･ＡＣプラグ･ACコードには触れないでください。感電の原因となります。
	●ぬれた手で、ＡＣプラグを抜差ししないでください。感電の原因となります。

⃠	●ブースターのカバーを取外したり、改造したりしないでください。また、ブースターの内部には触れないでください。火災･感電の原因となります。内部の点検･調整･修理は販売店または施工業者にご依頼ください。
⃠	●ブースターを風呂場やシャワー室などで使用しないでください。火災･感電の原因となります。
	●万一、ブースターの内部に、異物や水が入った場合、ＡＣプラグをＡＣコンセントから抜いて販売店または施工業者にご連絡ください。そのまま使用すると、火災･感電の原因となります。 ●万一、煙が出ている、変な臭いや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災･感電の原因となります。すぐにＡＣプラグをＡＣコンセントから抜き、煙や臭いが出なくなるのを確認して販売店または施工業者に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。 ●万一、ブースターを落としたり、破損したりした場合、ＡＣプラグをＡＣコンセントから抜いて販売店または施工業者にご連絡ください。そのまま使用すると、火災･感電の原因となります。
❗	●ＡＣプラグは、ＡＣコンセントに根元までしっかりと差込んでください。すき間があるとゴミがたまり、火災の原因となります。また、ＡＣプラグは定期的にＡＣコンセントから抜いて掃除してください。

⚠注意

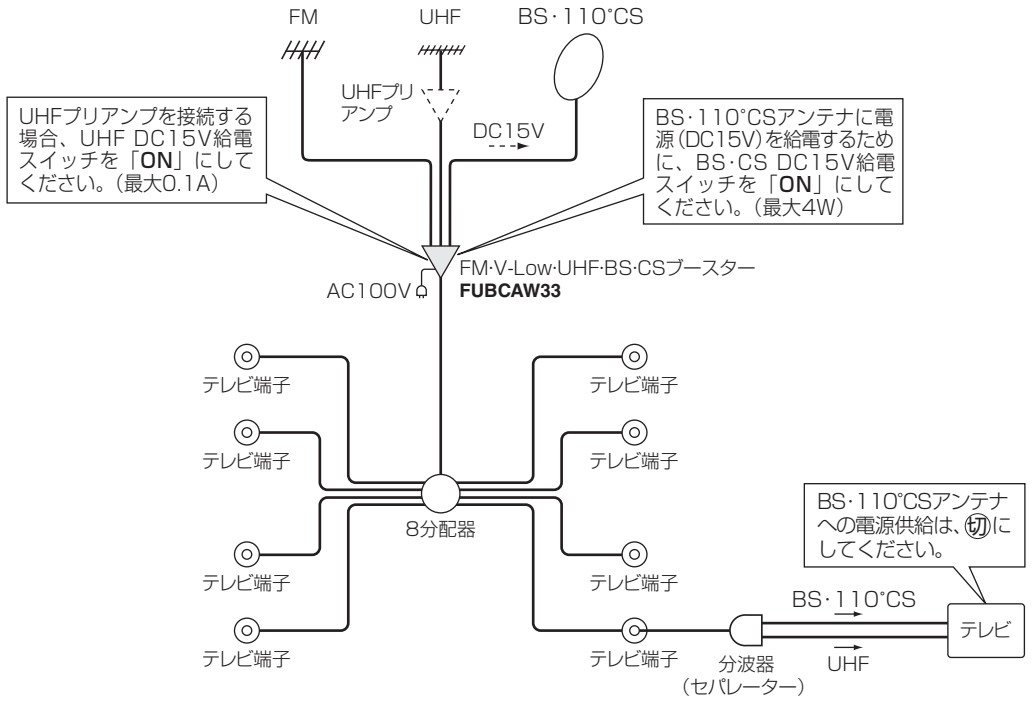
⃠	●ブースターをDC15V方式で使用するときは、指定外のブースター電源部を使用しないでください。火災の原因となることがあります。 ●ブースターは、湿気やほこりの多い場所、調理台や加湿器の近くなど、油煙や湯気などが当たるような場所で使用しないでください。火災･感電の原因となることがあります。
⃠	●ブースターは、風通しの悪い場所で使用しないでください。風通しを悪くしたり、通気孔（開口部）をふさいだりすると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、グラスウールのような断熱材の上に置いたり、包んだりしないでください。

⚠注意

⃠	●ブースターは、温室やサンルームなどの、高温で湿度の高い場所で使用しないでください。火災･感電の原因となることがあります。 ●ACコードは、結んだり、束ねたりしたままで使用しないでください。発熱して、火災の原因となることがあります。 ●ＡＣプラグをＡＣコンセントから抜くときは、ＡＣコードを引っ張らないでください。ＡＣコードが傷つき、火災･感電の原因となることがあります。必ずＡＣプラグを持って抜いてください。
	●ブースターを移動させる場合、必ずＡＣプラグをＡＣコンセントから抜いてください。ACコードが傷つくと、火災･感電の原因となることがあります。 ●お手入れは、安全のため、必ずＡＣプラグをＡＣコンセントから抜いて行なってください。感電の原因となることがあります。
⚠	●テレビ受信工事には技術と経験が必要です。販売店または施工業者にご相談ください。

使用例

4K8K放送を伝送する場合、4K8K放送に対応している機器、ケーブルを使用してください。



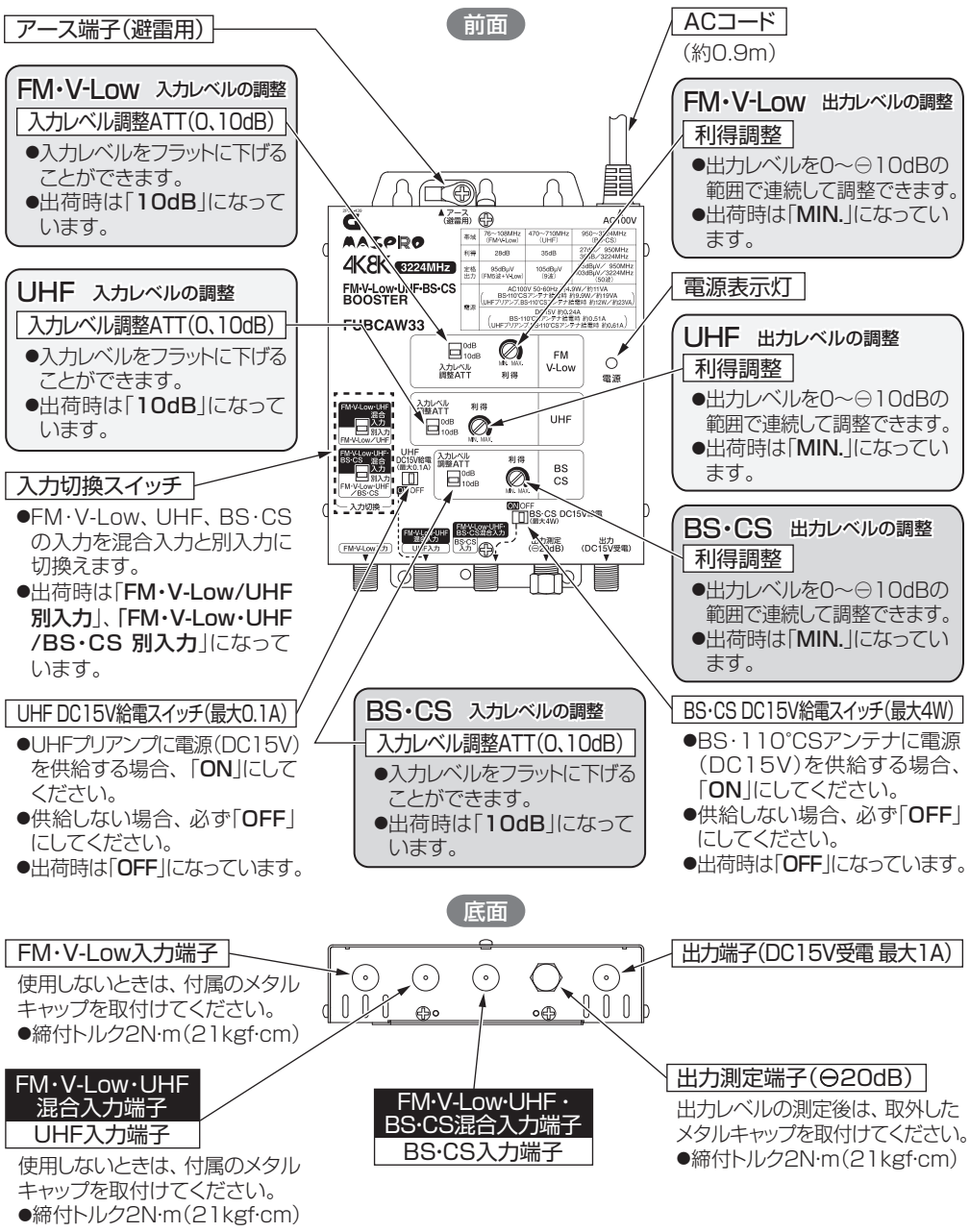
ご注意

- UHFプリアンプを接続しない場合、UHF DC15V給電スイッチを必ず「**OFF**」にしてください。「**ON**」にして接続すると、故障の原因となります。
- BS･110°CSアンテナに電源（DC15V）を給電しない場合、BS･CS DC15V給電スイッチを必ず「**OFF**」にしてください。「**ON**」にして接続すると、故障の原因となります。
- 7Cケーブルを接続するときは、必ずコンタクトピン付F型コネクターを使用してください。コンタクトピン付き以外では、故障の原因となります。

各部の名称と機能

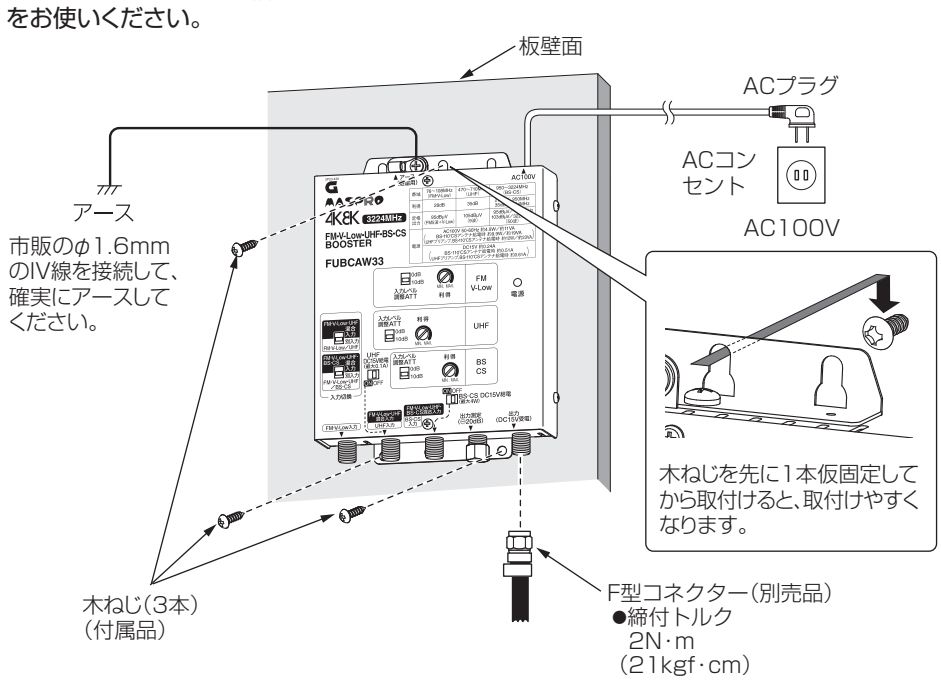
ご注意

- ●利得調整を操作するときは、調整用ドライバーを使用してください。無理に回すと、こわれることがあります。
- ●スイッチは軽く操作してください。力を入れすぎると、こわれることがあります。



取付方法

- ●本器は屋内用です。雨水のかかる場所では、防水型の機器収容ボックスに設置してください。
- ●75Ωケーブルは**S5CFB**相当以上のJISケーブル、F型コネクターはコンタクトピン付F型コネクターをお使いください。



ご注意

- ●本器は、取付方法にしたがって正しく取付けてください。(本器を横向きや逆さまにして取付けないでください)
- ●ACプラグは、下記「**2.信号の入力方法の選択とケーブルの接続**」が終了するまで、ACコンセントに接続しないでください。
- ●本器は、内部に熱がこもらないように、グラスウールのような断熱材の上に置いたり、包んだりしないでください。
- ●本器の通気孔(開口部)をふさがないでください。
- ●腐食性ガス(塩素、硫化水素、亜硫酸ガス、窒素酸化物、塩基性ガスなど)が発生する環境で本器を使用しないでください。
- ●電気配線と束ねて配線することは行わないでください。また、強い電磁波を受ける場所を避けて設置してください。
- ●設置場所は、メンテナンスに容易な場所を選定してください。

機器収容ボックスに設置するときのご注意

- ●本器を機器収容ボックスに設置するときは、機器収容ボックス内が製品の使用温度を超えないように、下記の点に注意してください。機器収容ボックス内が高温になると、故障の原因となります。
  - ・機器収容ボックスは、内部の温度が40°Cを超えるような場所に取付けないでください。
  - ・機器収容ボックスは、400(H)×500(W)×160(D)mm以上の大きさで、換気孔(開口部)のあるものを使用してください。[換気孔(開口部)をふさがないでください]
  - ・本器以外に発熱する機器を設置するときは、機器収容ボックスを大きなサイズにしてください。
  - ・本器は、高温にならないように、できるだけ機器収容ボックス内の低い位置に取付けてください。
  - ・本器の通気孔をふさぐような機器収容ボックス内の位置に、他の機器を取付けないでください。
- ●ビニルテープなどの腐食性ガスを発生するものを機器収容ボックス内で使用しないでください。
- ●機器収容ボックスは、あらかじめアースをしてください。

調整方法

ご注意

実用入力レベルを超えた状態で作動させておくと故障の原因となります。実用入力レベルの範囲内になるように調整してから、本器に電源を供給してください。

1.入力レベルの確認

アンテナからのケーブルをレベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザーに接続して、入力レベルが下記の実用入力レベルの範囲内になっているか確認します。

実用入力レベル(最小入力レベル～最大入力レベル)		
FM・V-Low	UHF	BS・CS
44 ～ 65(85)dBμV	42 ～ 68(88)dBμV	47 ～ 65(85)dBμV

- ●本器を1台だけ使用するときの値です。
- ●( )内は利得調整を「**MIN.**」(利得調整を㊤へいっぱいに回した状態)にし、入力レベル調整ATTを「**10dB**」にしたときの最大の実用入力レベルです。

入力レベルが最小入力レベルより低い場合

入力レベル調整ATTを「**0dB**」にして、以下の方法を行なってください。

① アンテナの方向を調整する。
② 高利得なアンテナに取換える。
③ ケーブルをできるだけ短くする。

入力レベルが最大入力レベルより高い場合

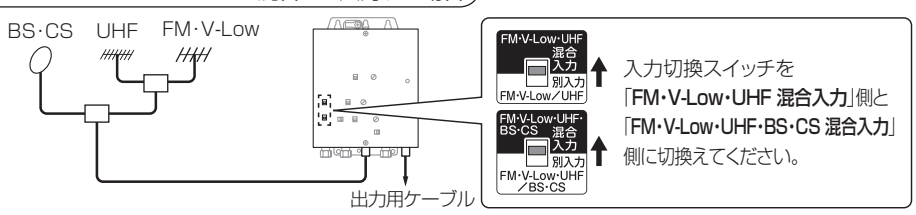
入力レベル調整ATTを「**10dB**」にし、利得調整を「**MIN.**」にしてください。

- ●それでも最大入力レベルを超えている場合、入力端子側に別売のアッテネーターを接続して、最大入力レベル以下になるようにしてください。

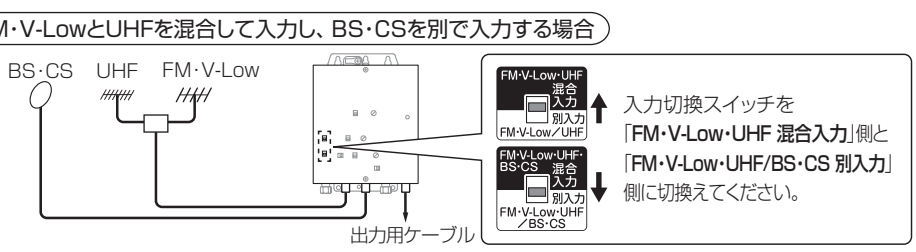
2.信号の入力方法の選択とケーブルの接続

① 入力切換スイッチを使用環境によって切換えます。
(出荷時の設定:「**FM・V-Low/UHF 別入力**」、「**FM・V-Low・UHF/BS・CS 別入力**」)
② 入力端子にアンテナからのケーブルを接続します。
③ 出力端子に出力用ケーブルを接続します。

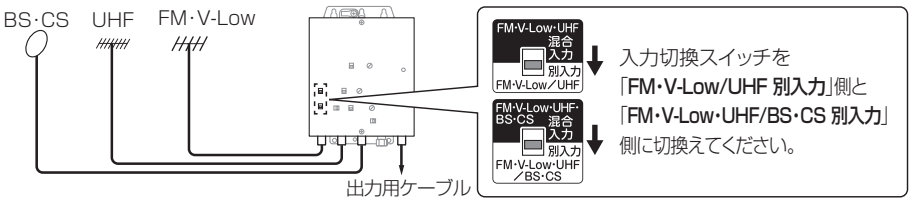
FM・V-Low、UHF、BS・CSを混合して入力する場合



FM・V-LowとUHFを混合して入力し、BS・CSを別で入力する場合



FM・V-Low、UHF、BS・CSを別々で入力する場合



3.出力レベルの調整

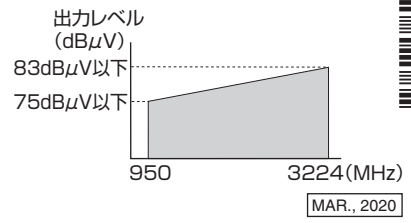
① 出力測定端子にレベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザーを接続します。
② 出力レベルを測定して、利得調整で調整します。(出荷時の設定:「MIN.」)
●測定値に20dBを加えた値が実際の出力レベルです。

FM・V-Low、UHFの調整

出力測定端子のレベルが、FM・V-Low:75dBμV以下、UHF:85dBμV以下になるように、利得調整で調整します。

BS・CSの調整

出力測定端子のレベルが、950MHzで75dBμV以下、3224MHzで83dBμV以下になるように、利得調整で調整します。



2K57-343 CC(TK)-03-6343-4T
MAR., 2020